

平成 28 年 1 月 18 日

第三者評価等のための研究力把握に関する勉強会について

大学評価コンソーシアム

第 5 期科学技術基本計画のとりまとめが進んでおり、我が国の研究政策も新たなステージに入ろうとしています。各大学では研究マネジメントに、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」等にもとづいた評価やそれらの状況把握結果を活用されていることでしょう。また、平成 25 年度「研究大学強化促進事業」及び平成 26 年度「スーパーグローバル大学創成支援プログラム」のタイプ A（トップ型）に採択された大学等では、研究力の強み・弱みの状況分析等を通じて、事業採択時に掲げた目標の達成に向けて取り組んでおられることと思います。さらに、国立大学では、第二期の中期目標・中期計画期間を対象とした評価として、研究活動についてもそれぞれの目標に照らした評価、ステークホルダーを想定した量的・質的な評価が行われているかと思えます。

さて、このような時期に、大学評価コンソーシアムでは、研究力把握の現状と課題を他大学の担当者などと話し合い、その解決法を模索する勉強会を開催することにしました。現在、第二期国立大学法人評価の自己評価書を作成してお困りの大学評価担当者の方はもちろんのこと、研究力の状況分析を行い、研究マネジメントの高度化を図りたい全国の大学評価担当者の方を対象とさせていただきます。

なお、短時間の勉強会で、ある程度焦点を絞った議論を行えるように、国立大学で行われている法人評価の観点などを用いて話を進めさせていただきます。しかしこの観点も国立大学に限定されない一般的な内容が含まれるので、公立大学、私立大学の方にもそれほど違和感なく議論に参加いただけるものと考えております。（国立大学の評価に関する説明は行います。）

1. 日時

平成 28 年 2 月 8 日（月）13：00－16：00

2. 会場

山形大学 東京サテライト（〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6）

キャンパス・イノベーションセンター 5階501会議室 or 509会議室

地図：<http://www.yamagata-u.ac.jp/satellite/tokyo/access.html>

3. 概要と想定する参加者

この勉強会では、冒頭に、国立大学で行われている法人評価の観点などを用いて、第三者評価等において求められている研究力把握のための観点と、活用できる情報源等について話題提供させていただきます。その後、2つの班に分かれて具体的な情報交換などを実施します。

A班は、研究力の把握方法全般を知りたい方向けのグループです。こちらは、参加者相互の討論によるノウハウの提供や提案を行う方式で進めていきます。特定のツールやデータベースに関

する個別具体的方法等については扱いません。

B班は、書誌情報データベースやその分析ツールを活用して研究力把握の具体的な手法を知りたい方向けのグループです。こちらは、担当者（山形大学・浅野）が中心となり、他の参加者のみなさまにもパソコンをご持参いただいたうえで、実際にデータベースを操作しながら研究力の状況分析につながる書誌情報の作成、指標の解釈等について参加者と共に考える班です。なお、B班につきましては、担当者の都合上、書誌情報データベースは **Web of Science**、分析ツールは **InCites Benchmarking** を使用して、研究力把握の方法を議論していきます。

参加条件などを整理しますと、以下のようになります。

A班：

- ・ 国立大学法人評価や一般的な研究評価における研究力把握についてお困りの評価担当者（教員を含む。URAの方も含みますが、内容的には初歩的になると思います。）。
- ・ 研究力を把握する際の課題を以下の3つの観点に沿ってお持ちいただき、他大学の方と討論ができる方。（「自大学ではこうやった」的な経験談で十分です。）

- 1) 研究活動の状況（アクティビティ：外部資金等による研究実施状況、研究成果の発表状況、研究成果の社会的還元等の状況、研究推進方策とその効果など）
- 2) 研究成果の状況（アウトカム：研究成果の学術面及び社会、経済、文化面での特徴、外部からの評価）
- 3) 優れた研究業績の選出方法（例：研究業績説明書等）

・ これらに関連する関係機関や企業等の方（定員が少ない設定なので、情報収集のみを目的とした方のご出席はご遠慮ください。製品やサービスのご紹介も必要に応じてやっていただいてもかまいませんが、その製品やサービスを用いなくとも可能な研究力の把握や分析に役立つノウハウ等のご提供もよろしくお願ひします。

B班：

- ・ 現在、所属機関が **Web of Science** 及び **InCites Benchmarking** を契約していて、**InCites Benchmarking** のアカウントをお持ち（または当日までに取得できる方）で、当日、ノートパソコンをご持参のうえ、ご自身でログインできる方（ネットワーク環境、電源はこちらで用意します）。
- ・ 第二期の国立大学法人評価の自己評価書作成に際して、「学部・研究科等の現況調査（研究）」または「研究業績説明書」のとりまとめを担当されている方（URAとして法人評価の研究業績説明書作成に関わる予定の方を含む）もしくは、それらの観点で課題を相談したい公立大学、私立大学の方。

4. 定員

- ・ A班の定員は15名、B班は12名とし、計27名とさせていただきます（スタッフ込み）。
- ・ A班は1大学（または機関）1名まで、B班は1大学2名まで、ご出席いただけます。

5. 進め方と担当者

A班：

畠田敏行（茨城大学 大学戦略・IR室）、藤井都百（名古屋大学 評価企画室）、

小湊卓夫（九州大学 基幹教育院）

・議論する3つの観点（研究活動の状況の把握 [アウトプット、アウトカム]、優れた研究業績の選出方法）に関する基本的な説明を行います。

・参加者の方は、コの字型もしくはロの字型に座っていただき、順番に3つの観点での課題をご報告いただきます（可能な範囲で、紙でお配りください。）。

・それに対して、司会や他の参加者より、解決のためのヒントや経験談などを出して行きたいと思えます。

・この班には、エルゼビア社の方も参加し、情報提供をしてくださるとのことです（予定）。

B班：

浅野茂（山形大学 企画部）、大野賢一（鳥取大学 大学評価室）

・国立大学法人評価の「学部・研究科等の現況調査（研究）」の「分析項目Ⅱ」及び「研究業績説明書」で求められている自己評価書の記載事項を確認します。（山形大学・浅野）

・求められている記載事項に対して、InCites Benchmarking から得られる情報を、どのような操作や手順を通じて得ることができるのか、各種指標の中からどれを選ぶことができるのか、それらの指標の意味するところはどのようなところにあるのか、といったことについて検討します。特に、研究業績説明書を作成するうえで、「SS」と「S」を選定する際、これらの指標、またはデータを選定基準とし、それらを根拠として示すことができるのかといったことを見ていきます。

・なお、本セッションは、法人評価に向けて、大学でどのようにデータをまとめることができるのかを主眼において検討するものです。そのため、研究力把握の一環として、書誌データベースの活用を検討を行うことを想定しておりますが、こちらからある特定の指標を提案したり、誘導したりすることはございませんし、データベースに収録されている指標の妥当性や適切性等について討議することは致しません。これらの点をご了承のうえ、ご参加願います。

・この班には、トムソン・ロイター社の方も参加し、情報提供をしてくださるとのことです。

6. タイムテーブル

12:45 受付開始

13:00-13:05 趣旨説明（全体）

13:05-13:30 話題提供（全体）

（小休憩+会場移動 13:30-13:35）

13:35-15:35 グループ討論（A班、B班に分かれて実施）

（小休憩+会場移動 15:35-15:40）

15:40-15:55 総合討論（全体）

15:55-16:00 アンケート記入

※申し込み人数によっては、時間配分を変更する場合があります（終了時刻の変更はありません。）

7. 注意事項

- ・参加登録いただいた方が都合により欠席される場合、代理の方に出席いただいてもかまいませんが、事前にメールまたは電話でご連絡ください。
- ・報告書については、公開に支障のない範囲で作成します。

8. 申し込みおよびスケジュール

平成 28 年 1 月 20 日（水）13 時から受付開始

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

※会員専用ページからお申し込みください。

9. 問い合わせ先

山形大学 学術研究院（企画部）浅野 茂

asano@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

電話：023-628-4189

茨城大学 大学戦略・IR 室 畷田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8572

10. 謝辞

会場につきましては、国立大学法人山形大学様に格別のご配慮をいただきました。記して謝意を示したいと思います。